ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業

「ふるさとテレワークで人を活かす！九州みらいジャンクション創出事業」

株式会社パソナテック（佐賀県鳥栖市）

■実証概要

- テクノロジーの活用により、離職なき、ふるさと帰還の実現。
- 大規模都市の近隣地域において、ＩＴ・クリエイティブ分野の雇用を創出。
- 若者や女性の地元での就業や定着を促すため、「学び」と「働く」を提供する「場」を創出。
- 大都市から、地方へ。人・仕事・企業の流れを作りだし、地域の雇用を創出。

■実証成果・課題

成果

- 【移住者】 システム開発者のワークライフバランスが実現でき、月60時間のプライベートな時間を作りだすことができたことに加え、生産性も向上した。
- 【学生】 在学中に、テレワークで「東京の企業のWeb制作」の実務を経験できる機会を、学生に提供できた。
- 【女性】 生活時間を確保しながら働きたい女性が希望する、「オフィスワーク」、「クラウドソーシング」の機会を提供し雇用のミスマッチ解消がはじまった。
- 【東京本社】 テレワークを実施するための業務フローの変更実施により、事務業務効率と正確さが向上し、結果的にコスト削減もできた。
- 【テレワークセンター】 全国から約70件の視察を受入。コワーキングスペース併設や地域住民のイベント利用で、移住者は孤独感のないテレワークができた。
- 【普及展開】 働き方イノベーションフォーラム開催（1月）東京・大阪で150社を集め、テレワークセンターや佐賀県鳥栖市のポテンシャルを発信できた。

課題

- 【移住者】 本社とリアルタイムにコミュニケーションがとれること。（方法・頻度等）
- 【本社社員】 上司、同僚ともにテレワーカーと仕事をすることに慣れていくこと。マネジメントのルールを整えること。スキルアップできる機会を定期的につくること。
- 【学生】 業務実施時に必要なビジネスマナーも習得できるようにすること。
- 【通信】 オンライン会議ツールの音声品質の向上。
- 【テレワークセンター】 セキュリティレベルを高めること。会議や電話の際に利用できる個室を設けるなど、利便性の向上。

■実証終了以降の取組内容

- 高校生向け　プログラミングスクール開催。ITの世界やプログラミングを学ぶ機会を提供（3/26）
- 大学生向け　プログラミングコンテンストを開催し、大学では機会が少ないアクティブラーニングの機会を提供（2/29-3/3）
- 佐賀大学との連携　　学生のインターンシッププログラムの開発、社会人向けの学びなおしプログラムの開発（実施中）
- 佐賀市への活動拡大

1. 実証概要

テレワーク実証

大都市圏からの流れ創る

- **しごと**
  - IT
  - 労務事務
  - クリエイティブ制作
- **企業**
  - IT
  - Web
  - 誘致セミナー100名
- **ひと**
  - 若者
  - 女性
  - 育成100名

さがんみらい テレワークセンター鳥栖

人口増

本社機能一部移転

離職なきふるさと帰還

類型 A・B・C・D

パソナテック　サテライトオフィス

都市部企業向け　テレワークセンター

地域住民　コワーキングスペース

都市部から移動　学生・若者Uターン者　女性

佐賀大学

久留米大学

生活直結サービス

暮しやすい、働きやすい街！鳥栖

情報コンシェルジュサービス

鳥栖に転入する際、必要な情報をキュレーションする地域情報サイト

ユーザー5000 UU/月

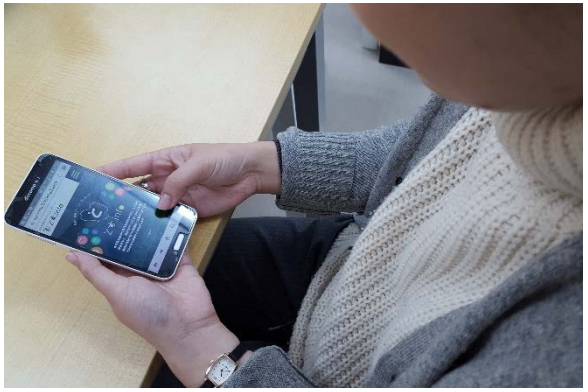
市民参加型　Q&Aサービス

地元の人、先輩転入者が答えてくれる、市民参加型のQ&Aサービス

書込み数15件/月

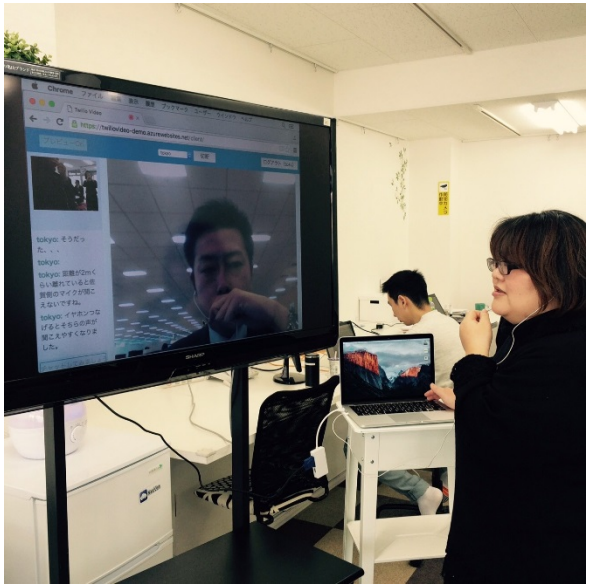
実証担当　パソナテック

実証担当　ローカルメディアラボ



2. 実証成果・課題

テレワークセンター内部



オンライン会議ツールの活用

地域に開かれたテレワークセンター

成果

1. ワークライフバランス&生産性向上
2. 地方大学生の新しい働き方の実現
3. 商店街で孤独感のないテレワークの実現

課題

1. 本社とのコミュニケーション
2. 若手社員のスキルアップ
3. テレワークセンターの利便性の向上
   セキュリティレベルの向上、個室の設置等

3. 実証終了以降の取組内容

PASONA TECH　Microsoft

大学生
2.29-3.3

就職時
8割が県外就職

高校生
3.26

就職時
4割が県外就職

ITの世界で働きたい若者を増やし、佐賀で働ける若者を増やしていく取組のひとつ